

水稻の出穂期及び斑点米カメムシ類防除時期に関する情報

令和8年7月23日
宮城県農政部みやぎ米推進課

1 水稻出穂期及び斑点米カメムシ類防除適期の予測

地帯区分	出穂期	斑点米カメムシ類防除時期	
		1回目	2回目
北部平坦	7/31	8/3 頃	8/10 ～ 8/13 頃
南部平坦	7/30	8/2 頃	8/9 ～ 8/12 頃
仙台湾沿岸	7/31	8/3 頃	8/10 ～ 8/13 頃
西部丘陵	8/2	8/5 頃	8/12 ～ 8/15 頃
三陸沿岸	8/5	8/8 頃	8/15 ～ 8/18 頃
山間高冷	8/13	8/16 頃	8/23 ～ 8/26 頃

- 1) 令和8年7月7日現在の出穂予測（古川農業試験場）により算出。
- 2) 対象品種は「ひとめぼれ」
- 3) 気象データは、7月7日までは実況値、その後26日間は予報値を使用。
- 4) 斑点米カメムシ類の防除方法は本田2回防除、適期は「穂揃期とその7～10日後」

2 防除時期の見込み及び蜜蜂の被害軽減に向けた対策

【防除時期の見込み】

- ・斑点米カメムシ類の薬剤防除は、水稻の「穂揃期とその7～10日後」の2回防除が基本であるため、水稻の出穂状況に応じて前後します。
- ・本年の水稻の出穂期予測（令和8年7月7日現在）は上の表のとおりです。
また、県内の水稻の生育状況は、下記の県HPで公表しています。

県HP（みやぎの米づくりについて）

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/komezukuri.html>



- ・7月中旬の調査では、斑点米カメムシ類の発生量は平年並ですが、発生地点率は平年よりややや高くなっており（7月23日、県病虫害防除所発表）、計画的に防除が実施されることが予想されます。

【蜜蜂の被害の特徴】

- ・蜜蜂は、巣箱から半径2km程度の水田に飛来する可能性があります。
- ・水稻のカメムシ類防除の際に蜜蜂が飛来して殺虫剤に直接暴露すると、被害が発生する可能性が高くなります。

【対策】

- ・巣箱の設置場所や期間については、地域のJAや農家等と情報共有することが有効です。
- ・巣箱の設置は、水田周辺や水稻以外の花粉源が少ない場所を避けるか、出穂後は巣箱を退避させることが有効です。また、農薬が散布されている間は、巣箱を日陰に設置するほか、水飲み場の確保等により巣箱内の温度の上昇を抑制するなど、蜜蜂に影響がない状況下での巣箱の網掛けが有効です。
- ・無人航空機による防除が中心の地域では、「宮城県無人ヘリコプター及び無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」により情報共有されている無人ヘリ散布事業計画書を参考としてください。なお、本田での防除作業は、天候等により計画どおり実施できない場合があるため、短期的には県養蜂協会や地域のJA等に直接確認することが有効です。
- ・個人防除が中心の地域では、上記1の防除適期の予測を参考としつつ、地域のJAや農家等に防除時期を直接確認することが有効です。